

報道関係者 各位

2008年11月17日 日本科学未来館

ドームシアターガイア 3D映像システム導入

日本初 全天周の超高精細立体視映像システム「Atmos」導入。2009年1月10日(土)公開

日本科学未来館(略称:未来館、館長:毛利 衛、所在地:東京都江東区青海)は、6階 ドームシアターガイアに日本初の全天周の超高精細立体視映像システム「Atmos」を導入し、MEGASTAR-II cosmos と Atmos による新コンテンツ「バースデイ～宇宙とわたしをつなぐもの～」を一般公開します。

今回、ドームシアターガイアに常設される日本初の全天周・超高精細立体視映像システム「Atmos」は、4K×4K(フルHDの8倍相当の高解像度)のデジタル映像により、より繊細な立体映像をご覧いただけます。最先端テクノロジーと日本ならではの職人的なこだわりを集結させた本システムでは、私たちをとりまく空気感や気配までも感じられるような、リアリティを追求した次世代の新しい映像体験が可能となりました。また、水平360度の視界を覆う映像をわずか2台のプロジェクターで実現。映像のつなぎ目を最小限におさえることで、よりクリアで没入感のある立体映像となっています。ドーム立体視映像システムは国内でも数館導入されているものの、全天周・4K×4K 超高精細での立体視映像システムはハワイのイミロア天文教育センターに次いで世界で2例目、日本では初となります。未来館では Atmos だけではなく、世界で最も先進的なプラネタリウムとしてギネスワールドレコードにも認定されている、500万個の恒星を映し出す MEGASTAR-II cosmos と双方を使用し、よりリアルな宇宙空間を描き出します。

第1弾のコンテンツは「バースデイ～宇宙とわたしをつなぐもの～」。“宇宙はどうなっていて、私たちとどんなつながりがあるのか？”このシンプルかつ壮大なテーマについて、未来館の科学コミュニケーターが解説。その時々のお話を加えながらわかりやすく生で解説していく「ライブ番組」と、よりストーリー性を重視した「オート番組」、二種類の番組を上映します。

■ 概要 ■

公開日 2009年1月10日(土)より
 コンテンツ 「バースデイ～宇宙とわたしをつなぐもの～」
 スケジュール 平日 10:45～(*)/11:30～(*)/14:45～/15:30～
 土日祝 10:45～/11:30～/12:15～/14:00～/14:45～(*)/15:30～(*)/16:15～(*)
 ※(*)はライブ番組、無印はオート番組
 ※朝10:00より整理券配布
 場 所 日本科学未来館 6階 ドームシアターガイア (住所:東京都江東区青海2-41)
 上映時間 約20分
 開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館時間30分前まで)
 休館日 毎週火曜日(ただし、祝日、春・夏・冬休み期間は開館)、年末年始(12月28日～1月1日)
 入館料 大人 500円、18歳以下 200円 / 団体割引有り
 ※障害者手帳所持者は当人および付き添い者1名まで無料
 企 画 日本科学未来館
 監 修 谷口義明(愛媛大学宇宙進化研究センター長)
 協 力 国立天文台4D2U、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、株式会社五藤光学研究所ほか

※一般公開に先駆けて12月下旬にプレス向けの試写会を予定しております。詳細は追ってご連絡いたします。

※ドームシアターガイアリニューアルに伴い12月8日(月)まで閉鎖。12月10日(水)から1月8日(月)までは全天周映画「宇宙エレベータ」のみを上映します。

一般からのお問い合わせ先	このリリースに関するお問い合わせ先
日本科学未来館 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL:http://www.miraikan.jst.go.jp	日本科学未来館 広報・国際渉外室 広報担当 (press@miraikan.jst.go.jp) 〒135-0064 東京都江東区青海2-41 TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

第1弾コンテンツ「バースデイ～宇宙とわたしをつなぐもの～」

通常のプラネタリウム番組とは違い、未来館の VR シアターでも上映している国立天文台 4 次元デジタル宇宙プロジェクト (4D2U) による、最新の科学的データに基づいた立体視シミュレーション映像をメインに、本システムが得意とする“宇宙”を正面から描きます。私たちが生きている日常の見慣れた空間、地球、そして地球を含む太陽系の惑星や星々、銀河などをめぐりながら、それぞれの個性や特徴を、全天周の立体視ならではの迫力と存在感で際立たせます。同時に、太陽系や銀河の形成に関するシミュレーション映像を通して、私たちと宇宙をつなぐ、共通のルールについても明らかにしていきます。さらに舞台は 137 億年前といわれる宇宙のはじまりへと及び、2008 年ノーベル物理学賞の受賞で話題となった“素粒子”の存在をめぐって、科学的知見と感性の両面からアプローチしていきます。

[資料]

「Atmos」について

全天周・超高精細立体視映像システム。Allsky Three-d Movies for Sentients の略。また、Atmosphereからも由来している。

Atmosphere: (地球または天体をとりまく) 大気(圏)、空気、雰囲気、周囲の状況、環境

Sentient: 感覚をもった、感覚の鋭い

Sentients: 敏感な人、審美眼(知覚力)のある人

「Atmos」の主要スペック

■3次元投影装置

投影機器	SXRD方式プロジェクター×4(左/右眼各々について前後分割投影) 単体光出力 10000ルーメン 画面解像度 4K×4K(フルHDの8倍相当) 表示画素数 約1150万ピクセル(有効画素数) 立体視方式 分光式フルカラー立体視
投影レンズ	専用設計 超広角レンズ×4

■3次元投影システム

主要機能	デジタルプラネタリウム機能 恒星、銀河データ 約300万個 太陽系内惑星、衛星等データ 約50個 各種座標系の表示 日本語、英語、韓国語、中国語による名称表記 全天ムービープレーヤー機能 全天ムービー(立体視/非立体視) 立体視オブジェクトのリアルタイム表示
------	--

■開発・製作 株式会社五藤光学研究所

[参考画像]



宇宙の大規模構造



3D 映像観覧イメージ

本件に関するプレスリリース、及び関連画像は未来館ホームページよりダウンロードしてご利用いただけます。

URL: <http://www.miraikan.jst.go.jp/j/press/index.html>